

道教委 放課後活動推進協(道北)

取組の充実へ120人研鑽

支援必要とする子の関わり等

【留萌発】道教委は12日、留萌合同庁舎を主会場として第1回放課後活動推進協議会(道北会場)を開催した。写真。全道から会場とオンラインを合わせて約120人が参加。特別な支援を必要とする児童生徒への関わり方に関する講義のほか、コーディネーショントレーニングを通して児童生徒への活動支援について理解を深めた。

同協議会は、放課後や休日などにおける子どもの活動拠点づくりに関わる人を対象に実施しているもの。子どもへの活動支援の在り方を含めた専門的な協議や演習などを行い、放課後活動を支える人材の資質向上を図ることがねらい。例年道内4ブロックで年2回開催している。

今回、留萌教育局が主催した。道北会場では、小平高等養護学校(齋藤利文校長)で特別支援教育コーディネーターの大久保城汰教諭が「特別な支援を必要とする児童生徒について」と題して講義した。



特別な支援を必要とする児童生徒の社会参加を促していくため、関わる大人による効果的な指示の出し方や、集団で活

動しているも個々に伝わる言葉かけなどについて、行動分析学の視点を交えて説

明した。続いてNPO法人日本コーディネーションコントレニング協会の熊耳雅美氏が「運動が楽しくなるコーディネーションコントレニング」と題して演習。熊耳氏は体だけではなく脳と心に刺激を与えることで、

運動自体を学習する能力や潜在的な能力としての学習力を引き出し、知性・感性・身のこなしの向上を目指す同トレーニングについて実技を交えて紹介した。

参加者たちは「うまくいかなくても子どものせいではなく、大人が変わっていい」と呼びかけた。

また、小平町立小平小学校の山際信博教頭と苫前町立苫前中学校の佐藤隆司教頭がそれぞれ研究提言。研究協議では「教育課程に関する課題の改善に向けた取組を活用・活性化することにより、教職員の資質能力を高める」を柱に意見を交換した。

学校改善へ研鑽積む

留萌小中教頭会が研究協

II。関係者含めて29人が参加。基調報告や研究提言、研究協議を通して教頭としての職能の向上を図った。

取組は、管内学校教育推進事項の重点を踏まえ、当面する教育課題および学校教育上の諸問題について研究協議し、教頭の職能向上を図るとともに、管内教育の振興に寄与することがねらい。

【留萌発】留萌管内小中学校教育頭会(小林剛会長)は16日、苫前町の苫前地区コミュニティセンターで研究協議会を開いた。写真など学びのツールが変化し

【岩見沢発】ネイパル深川は、7月20日から3日間、同施設で冒険キャンプ・夏を開催する。

対象は仲間と力を合わせて困難を乗り越える体験がしたい小学校5年生から中学生。定員は25人までとしている。

参加費は小学生8500円、中学生8800円となっている。